

様式4

令和6年度 学校運営協議会評価報告書1

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 福光 浩

評 価 日	令和6年6月25日（月）
評 価・提 言	学校の所見・改善策
1 目標設定について 2 評価項目と目標達成のための取組について （1）学校の魅力化・特色化の推進 ・英語のレベルがかなり上がっているように感じるが、最近の東高の評判はどうか。 ・県外から国際バカロレア教育を受けたいという生徒があれば、どう対応するか。 （2）生徒支援の充実と業務改善について ・中学校では、生徒同士の話し合いの時間を設けながら、先生の部活動の指導時間の短縮に取り組んでいるが、高校ではどうか。	・学校目標は、10年超で達成を目指す長期目標、5年程度で達成を目指す中期目標、当該年度で達成を目指す短期目標とし、長期目標には「スクール・ミッション」の文言を入れた。 ・国際バカロレア教育について、中学校の生徒、保護者、先生方に毎年PRすることが必要。実際に学んでいる生徒の姿を見てもらうことが強いアピールになると思い、授業公開の場を設けていきたい。 ・県外の中학생へのPRは重要と考える。名古屋、大阪等で行う県の県外生募集PRイベントに参加しPRする予定。県外生を受け入れたときの住まいをどうするかを県教育委員会・倉吉市と協議している。HPの充実にも努めたい。 ・高校は部活動の指導を地域に任せることにはなっていない。部の数を絞り、1つの部の顧問の数を増やすことで1人当たりの負担を減らすことに取り組んでいる。

・部のない競技をしている生徒の総体の参加はどうか。 ・A I を活用した採点システムで業務改善は行えないか。 3 具体目標について ・図書館の来館者数を数値目標としたねらいは何か。 4 目標達成のための具体方策について ・生徒が主体的に学ぶ場面をどう作るか、学びのスタイルの変換が必要に思われた。今後どう授業のスタイルを変えていくか具体的方策はあるか。 5 その他 ・特になし	・空いている教員や生徒会主任、管理職が引率して対応している。 ・百問繚乱を活用。答案をスキャナで読み込み、採点の効率化になっている。集計等も可能で、生徒に答案を返却する際に個票も付けることができる。読み取りが弱い面があるが、採点ミスが減る。観点別評価を問題に設定しておく、集計結果により、A B C の評価がつけやすくなる。 ・図書館を生徒の居場所、学習の場所、授業での活用等どれだけ図書館を利用したかという観点での評価として、来館者数と貸出冊数の積が1000を超える日が開館日の半分以上となることを目標とした。昨年度末に入館者数を自動でカウントできるシステムを導入した。 ・年間でP B L を必ず入れるよう先生方には言っている。校長面談の際にはどの場面でP B L をするのか話し合っている。学校運営委員会で各教科主任にどこまでできているか報告してもらい、共有する形で進める。
--	---